



国中だより

一中ホームページ：国立市立国立第一中学校へアクセス

国立第一中学校
学校だより
令和 2年 5月号
5月11日(月)発行



感謝の気持ちを忘れずに

校長 山上 真哉

5月7日から5月31日まで臨時休業日は延長されました。保護者の方におかれましては、11日と12日の2日のどちらかの日に、生徒2週間分の課題及び副教材を取りに来ていただくことになり、ご協力をお願いいたします。生徒の皆さんにとって、このような状況がまた3週間続いてしまいます・・・今私たちがやらなければならないことはよくわかっています。私も身を守るための自粛を、しっかりやっているつもりでも、近くの公園に犬の散歩に出かけたり、買い物に出かけたり気を緩めているつもりはないのですが、結果として人のいる場所に出かけてしまうことがあります。必要最低限の外出はしょうがないし、心身の健康を維持させるために大切な時間と考えています。大切なことは、その意識を常にもち続けて生活することです。

新年度を迎えこのような状況が続く中、少しでも良い話題をご家庭に提供できたらとホームページに私からのメッセージを掲載させていただいています。その中から、先日心温まる出来事がありましたので、紹介させていただきます・・・

朝日新聞の記事から「ゴミ収集の皆様へ」袋に感謝の手紙・・・作業員の心に届く

《ご苦労様です 私たちは何時も感謝の毎日です。コロナウイルスの感染が広がり お体には十分お気を付けてください。》

この日、別の収集所にも、同じように手紙の張られたゴミ袋があった。収集後、作業員はいつものように「清掃リサイクル事務所」に戻ると、黙って2枚の手紙を置いていった。

ゴミ袋の中には何が入っているか分からない。食べ物の残り汁が袋にそのまま捨てられていれば、収集車で圧縮した際に破裂して汁が飛び散ることもある。そんなことのないよう、作業員は袋をひとつずつ点検している中で見つかった、2枚の手紙だった。

最近、通行人がポイ捨てしたと思われるマスクの投棄が増えているという。ウイルスに汚染されている可能性もあり、マナー違反の行為に対し、厳重注意するよう作業員に促している折に届いた手紙だった。

担当課長は「名もなき作業員が行っている地道な作業ですが、区民の方からの激励は本当に嬉しい。一丸となって厳しい現状に立ち向かいたい」と作業員の想いを代弁する。

先日、大阪の吉村知事がいただいた寄付で医療従事者に対して20万円の支援金を考えているという内容の記事を目にしました。今私たちの命を守るために身の危険を感じながら必死に働いている医療従事者にとって大変励みになる支援だと思えます。私たちが今安心して毎日生活できているのは、もちろんこのような方々がいるからだと思えます。そして忘れてはいけないのが、恐らく支援金の対象にはならないだろうゴミ収集作業員のように私たちの生活を影となって支えてくださっている方々がたくさんいることを・・・スーパーに行けば生活するために必要なものが揃っています。それは、ものを工場から運ぶトラックドライバーがいて、スーパーでそれを受け取り、陳列棚に並べ、それを必死にさばいてくれるレジの人たちが身の危険を感じながら働いてくれています。もちろんその方々も生活のためだとは思いますが、私たちが今自粛をしっかりと行える環境を作ってくさっている多くの方々が影となって支えてくださっていると感じながら、感謝の気持ちを忘れずに生活していくことが今大切ではないでしょうか・・・

保護者の方々の中には、ここ数か月で生活が激変された方が多くいらっしゃると思います。私たち学校は国・国立市の指示をしっかりと守りながら生徒が安全にまた健全に成長できる環境を準備しています。

今度こそ6月1日にみんなと心の底から笑顔で再会できると信じて、共に前を向いて進んでいきましょう。